

## 2. 事業の目的と概要

当会は、平成9年（1997）の発足以来、アマチュア無線の技術を活用して、東南アジア、中近東（パレスチナ自治区、イエメン、イラン）並びに西アフリカ（モーリタニア、マリ、ギニア・ビサウ）の通信インフラ未整備地域を対象に、緊急用無線連絡網の建設支援を行ってきた。当初、支援活動費は、すべて会員の自己負担金で賄い、タクシー会社から供与された中古のタクシー無線機を利用して建設支援事業を行ってきたが、平成11年度及び平成12年度は、外務省事業補助金制度により総事業経費の半額までの助成金支給が認められるようになり、西アフリカのサハラ砂漠を重点的に、通信インフラ支援を進めることができるようになった。当時のサハラ地域は、電話回線はもとより、電力の供給も一部の都市を除いては全く無く、われわれが現地カウンターパート、「チシット文化福祉促進協会」（以下 ACSPT と称す）と協力して構築した30数局の緊急用無線連絡網が、当時、首都ヌアクショットと砂漠地帯の僻地村落を結ぶ唯一の連絡手段となっていたのが実情であった。

平成15年度から19年度にかけて、外務省NGO支援無償資金協カスキームを活用し、建設局数は急激に増え、村落固定局、車両移動局を含め延べ90局以上の無線連絡網が構築され、その結果、中央病院のドクターとの医療相談、必要医薬品の供給要請、砂嵐などの気象通報、害虫（バッタ）に関わる農事連絡、迷子のラクダの探索、離散家族間の連絡などのほか、伝染病（エボラ出血熱、マラリアなど）発生時の注意喚起、エイズ予防情報の普及を通じて、僻地村落の生活環境の改善と僻地の過疎防止に大きな役割を果たすことができた。当無線連絡網による裨益者数は砂漠地域に居住する住民及びその関係者ら150万人余りと推定される。

また、この間、日本人専門家により、現地人スタッフ数名も指導育成され、この後、隣国マリやギニア・ビサウに於ける同様の支援活動の際には、当会の派遣専門家と協働して事業を行うまでにレベルアップされて来ている。

当緊急無線連絡網の効果は、地元モーリタニア政府も高く評価し、平成20年3月には、駐日モーリタニア大使により、当会会員20名が慰労のため大使公邸に招待され、また、同年5月のTICAD-4に来日された同国大統領（当時）アブダライ閣下からは、レセプションの席上、当会関係者18名に対し直接、謝辞を賜った。

その後、平成26年（2014）10月、モーリタニア保健省の指導により、当会とACSPTが協働して、当無線連絡網に携わる助産婦、看護師、薬剤関係者らを集めて「医療向上セミナー」を開催したが、その際、無線連絡網を通じて送信されたセミナーでの医師の講義の内容が、一部の無線局では「良く聞き取れなかった」あるいは「受信出来なかった」との報告があり、その原因は、無線局の構成部品の劣化や破損のためと判り、現地カウンターパートの技術力、資金力だけでは解決することが難しいと判断したため、今回、建設後十数年を経過した当無線ネットワークを全体的に補修、回復する支援事業を実施することにした。

<p>(1) 上位目標</p>	<p>当会は、現地カウンターパート、ACSPTと協力して構築した既設無線連絡網が、必要な時期と場所で、常に、確実に機能するように、無線局各局の保守、運用に携わる人材の再教育を図るとともに、必要な構成部品を彼らに供給し、巡回保守作業を実施し、また、適量の補修部材を常に中央に在庫して、無線局の不具合発生時に速やかに対処できる態勢を整え、その結果、中央局を通じての、ボランティア・ドクターとの医療相談、不足医薬品の補給要請など無医村の保健環境の改善や、緊急情報（砂嵐予報、害虫被害などの農事情報）の送受信状況が改善されることを上位目標とする。</p>
<p>(2) 事業の必要性(背景)</p>	<p>(ア) 支援対象国、モーリタニアは国土の大半が砂漠地帯であり、単位面積当たりの人口集中度が極めて低いため、携帯電話の普及が遅れ、通信インフラ環境の貧困さを補うため、日常の連絡補助手段としての無線連絡網のニーズがアフリカの中でも最も高い国の一つと考えられている。</p>

	<p>(イ) カウンターパートからの報告によれば、日本人専門家が帰国後、運用を停止している無線局は約35局あり、その原因の多くは、バッテリーの消耗と使用頻度の高いマイクロフォンの破損が各30件余りで、その他は、アンテナの不良とソーラーパネルの機能低下と破損などであり、補修部材の供給とその修理手法の詳しい指導につき要望があった。</p> <p>(ウ) 本事業は、下記のとおり、外務省の国別援助方針である「貧困の削減」に資するものであると考える。</p> <p>①通年実施されている食料支援に関し、無線連絡網を通じて裨益村落から要望があった場合、中央の機関に対し連絡協力を行う体制をとる。</p> <p>②ヌアクショットやノアジブでの小中学校に対して、理科学習支援のためアマチュア無線の技術を活用して「鉱石ラジオの工作教室」の開催も企画している。</p> <p>③なお、モーリタニアとの間の国境管理に関し、当会は、平成25年、国境地帯の難民キャンプ受け入れ管理事務所間と中央を結ぶ無線連絡網設置を行っている。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>(ア) 先ず当会スタッフ2名がモーリタニアを訪問し、実情調査と研修会開催準備のための事前打ち合わせを行う。また、併せて日本側、現地側の役割分担を明確にする覚書の取り交わしを行う。</p> <p>(イ) 上記の事前調査の結果にもとづき、当会の専門家スタッフ3名を派遣し、砂漠地域で村落局の運営に従事している現地人スタッフ数名を選抜して、ヌアクショットに集め、無線局の保守点検の技術向上を目的に研修会を開催する。</p> <p>(ウ) 研修会終了後、研修者は供与された補修機材を携えて帰村し、担当の村落を巡回して、保守点検作業に取り組む。今回、本邦並びに現地で購入した部材は、将来の不具合発生時に対処するため一部を中央局に在庫する。日本人技術者は、治安上の問題で、ヌアクショットから砂漠地帯に出向く事が出来ないため、無線連絡網を通じて、遠隔操作により保守点検作業の指導を行う。指導の内容は記録して報告書に添付する。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) 無線連絡網の補強作業終了後は、研修によりノウハウを取得した現地スタッフが今後も定期的に巡回点検を実施するよう、カウンターパートと覚書を取り交わし、砂漠地域の無線連絡網が、継続して円滑に稼働するためのメンテナンス体制を確立する。</p> <p>(イ) 現在われわれが目標としている、無線網の活用による「僻地村落の生活環境の良化と住民の地域医療への信頼性の向上」に加え、現状の無線連絡網に関わるノウハウをさらに新しい分野に向け発展させること：例えば、(2) — (ウ) で記述した「小学校児童を対象に鉱石ラジオの手作り教室」開催し、子供たちと日本人派遣専門家が対面で対応し、科学への興味を沸かせ、顔の見える人間関係の樹立を通じて、日本に対する親近感、信頼感を構築する企画、また、高校の職員を日本に招聘して、アマチュア無線の免許を取得させ、帰国後、校内のクラブ活動として「アマチュア無線部」を作り、アフリカの子供たちが欧米諸国の白人無線オペレーターと対等な会話ができるような環境を創り、子供たちの視野を世界に開かせると共</p>

	<p>に、国際的自信と将来への希望を持たせる案など考えている。現在までに我々が培った両国の国際親善環境を、アマチュア無線の技術を通じてさらに展開して行きたい。ちなみに、モーリタニアには現地人によるアマチュア無線局は今までに1局も無い。</p>
<p><b>(5) 期待される成果と成果を測る指標</b></p>	<p>メンテナンス技術の研修を受けた現地人スタッフが既存の砂漠地帯の無線局70局余りを順次巡回して保守点検業務を実施することにより、経年のため構成部品の機能劣化のため運用停止を余儀なくされていた無線局が順次修復され、中央局及び周辺村落局間の交信が緊密となり、無線連絡網を通じたボランティア・ドクターによるきめ細かい医療相談がより効果的になるほか、気象情報、農事連絡などサハラ砂漠東南部地域の人たちが必要とするに情報が容易に得られるような無線連絡網が、大幅に改善されることが期待される。</p> <p>以下を成果を測る指標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「村落無線局の巡回メンテナンス結果」(最大30局の運用機能回復を目標)。</li> <li>・「ボランティア・ドクターの医療相談件数」(年間約200件を目標)などについてカウンターパート ACSPT より年2回、定期的に報告させる。</li> </ul>